

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富南小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。 |
|--|

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	93.4%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	86.9%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	89.1%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付いたりすることができている	89.1%	84.9%

すべての項目で全国平均よりも高い結果が出ています。

特に「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より6.9%も高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの 時間勉強していますか。「3時間以上」	4.3%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	10.9%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	17.4%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	41.3%	27.4%
「30分より少ない」	23.9%	12.9%
「全くしない」	2.2%	5.7%

1時間以上家庭学習に取り組む児童は全国平均と比べて低い結果が出ています。1時間未満の児童が67.4%おり、全体的に家庭学習の時間が全国平均と比べて少ない傾向があります。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

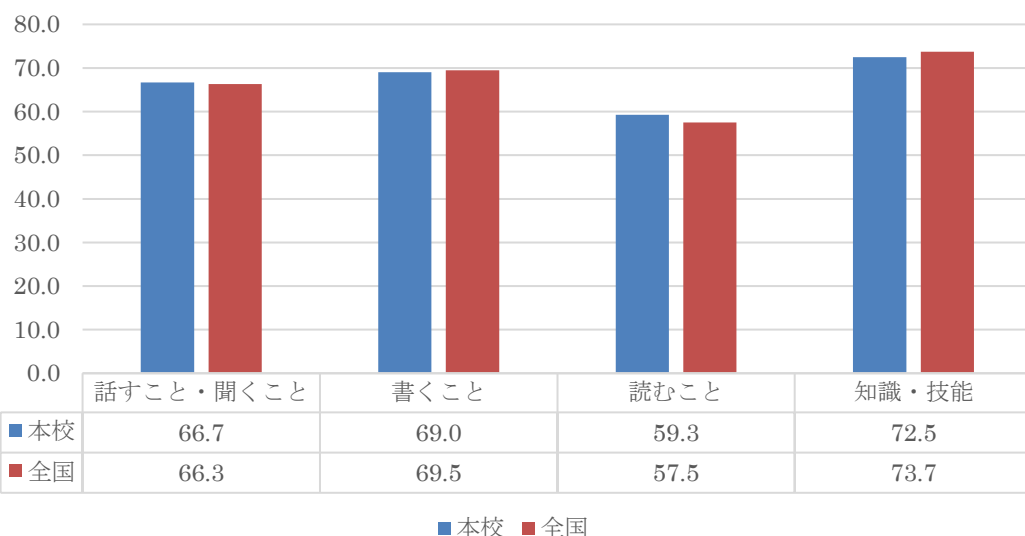
- 「学校に行くのは楽しい」「学習するのは楽しい」「友達と一緒に学ぶのは楽しい」と子どもたちが思えるように、ユニバーサルデザインの視点から授業改善や教室環境の改善に全職員で取り組みます。
- 授業では、様々な見方や考え方ができるように、小集団で話し合う活動を積極的に取り入れ、共有化を図ります。
- 一人一人のよさを認め、伸ばしていけるように全校で「ありがとうの木」の取り組みを継続し、子どもたちの自己肯定感を高めていきます。
- 学校からは、学年に応じた宿題を出して、基礎基本の定着や習熟を図っています。家庭学習の意義を理解させ、主体的に家庭学習に取り組めるよう指導していきます。

【ご家庭では】

- 低学年・中学年・高学年別に「家庭学習の手引き」を作成し、「家庭学習がんばり表」などに貼っています。「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。
- 家庭学習の改善を図ろうと、年に2回、中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習がんばり週間」を設定しています。規則正しい生活と家庭学習の定着は極めて大切なことです。お子さんが自分から進んでできたとき、少しでも向上したときを逃さず褒めることで意識がさらに高まります。

2 国 語

全国平均正答率との比較（小学校国語）



(1) 結 果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっており、粘り強く最後まで取り組もうとする態度が育ってきていると言えます。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「思考力・判断力・表現力」が 0.6 ポイント上回りました。普段の国語科の学習で、話の大まかな流れを捉えたり要旨を把握したりする活動が続けてきた成果が表れていると考えられます。また、全体的に無回答率が低く、粘り強く取り組んでいる傾向が見られました。課題として、「知識・技能」が 1.2 ポイント下回る結果となりました。「知識・技能」は国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などで反復学習に取り組む必要があります。また、複数の情報を読み取って、結び付けたりまとめたりする力にも課題があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

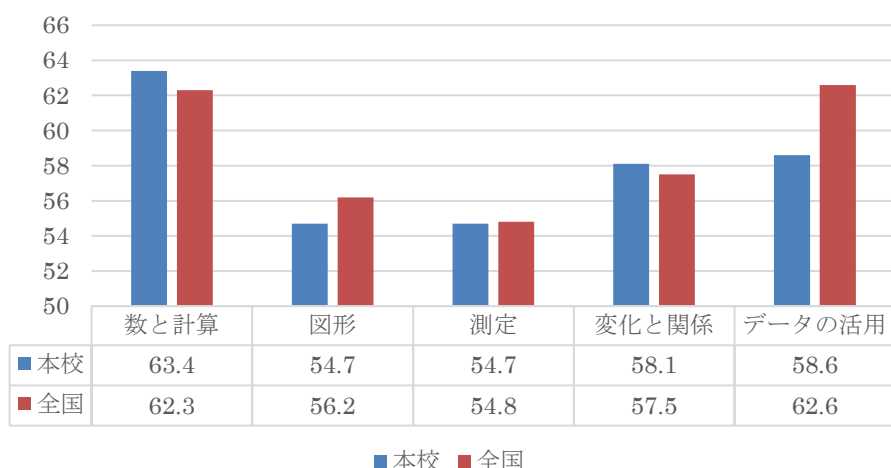
- 「読書タイム」で、図書室からの「おすすめの 50 冊」の本を中心に読んだり、物語やエッセイなど文章量のある本を読んだりして、読書の習慣化や語彙力・読解力の向上を図っていきます。
- 読み、書きの力を向上させるために、ICT 機器も積極的に活用し、基礎学力の定着を図ります。
- 文の中のキーワードを見つけ、複数の項目と結び付けて考えさせる授業の在り方を工夫することで、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。

【ご家庭では】

- 読書や音読を大切にしていきましょう。読書をすることで語彙力や表現力が育成され、言葉の力がつきます。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。

3 算数

全国平均正答率との比較（小学校算数）



(1) 結果

「数と計算」「変化と関係」は、全国平均を上回っていました。「図形」「データの活用」は全国平均を大きく下回っていました。また「図形」「数と計算」の領域では、選択式問題の無解答が多くみられました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」領域で、式や数、言葉を用いて記述する問題の正答率が全国平均を大きく上回っていました。「B 図形」領域で、台形を選択する問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると考えています。

また、「D データの活用」領域では、グラフを読み取り、もとにする量の何倍かを考える問題の正答率が全国平均を下回っていました。他教科を通してグラフや資料に慣れ親しむことが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

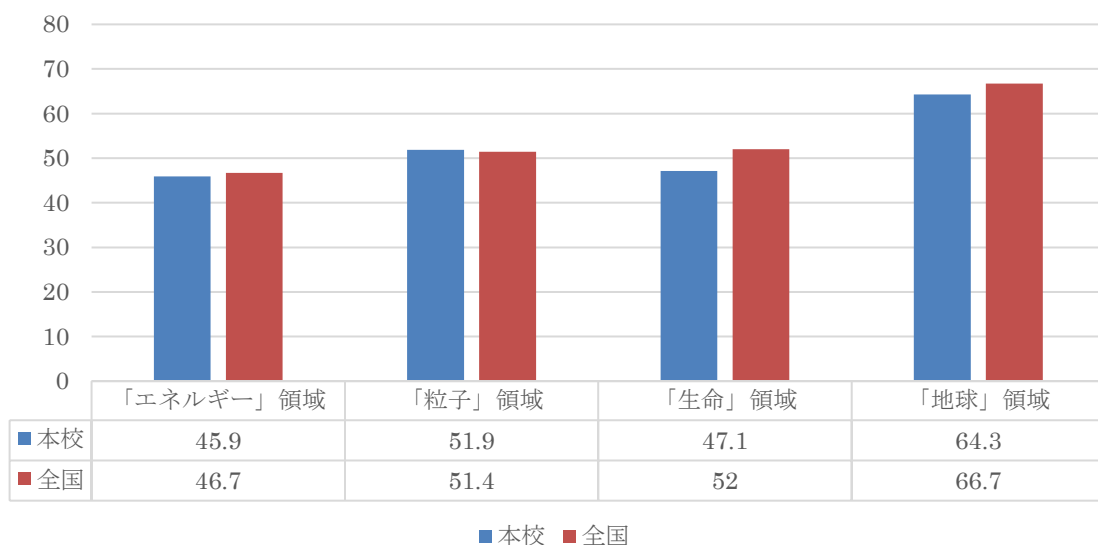
- 式から答えを出すだけでなく、式や数の表す意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場면을想起させたりしながら、「わかる授業」「楽しい授業」を目指します。
- 必要に応じて具体物を操作しながら、図形の概念や公式の意味が理解できるよう、指導法を工夫していきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉、図を用いて、論理的に書く機会を増やしたり、社会や総合的な学習など他教科を通してグラフや資料に慣れ親しんだりして、記述力や読解力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 日常生活の中で、算数をみつけ楽しく数や計算、図形などに触れられるように心がけてください。また、国語だけでなく、算数の基本的な計算や言葉などの音読にもチャレンジしてみてください。

4 理科

全国平均正答率との比較（小学校理科）



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「生命」領域は、若干低くなっています。また、無解答率を見ると、選択式の問題の無回答率が高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」領域と「地球」を柱とする領域の問題で、全国平均を大きく下回っています。情報量が多い問題に対して、時間内に情報処理ができておらず、回答まで至っていないことが課題として挙げられます。そのため無回答率も高くなっています。他教科と関連付けながら、文章量・情報量が多いことに慣れることが必要であると考えます。また、文章を読んで想像する力の向上も重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 他教科と連携して、図や文章からたくさんの情報を読み取る力を向上させます。授業の中で、結果の図と考察の文章を結びつける活動に力を入れます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。